

日本広報協会による審査員講評

○広報ふくつ (2023年10月号) 福津市

【広報紙(市部)入選】



(広報紙部門 講評)

特集で取り上げた「ブルーカーボン」はとてもいい素材でおもしろい。大事なテーマに取り組んだ心意気は評価に値する。気候変動という問題を、生活の場につなげようという企画がいい。

漁場がやせ細るのはウニが藻場を喰い荒らすことにイソ焼けが原因である。だからウニを捕るのだという構成はしっかり筋が通っている。ブルーカーボンが温暖化対策になるということもイラストでうまく表現されている。

○広報ふくち (2023年12月1日号) 福智町

【広報紙(市部)入選】



(広報紙部門 講評)

特集は眩光。これがまぶしい光を意味することは字面からわかるが、一般の辞書に載っている言葉ではないため、読者の気をひく仕掛けとなっている。

町内で活動する人々を取り上げ、そのまぶしさを伝えるという企画。

77歳で無農薬レモンを栽培している例など、足で集めたコンテンツで読みごたえがあった。様々な角度から人に焦点を当てて書いた記事は読み物としておもしろく、前向きな気持ちになれる点で秀逸といえる。写真を配置したレイアウトバランス、縦組みと横組みの併用した文字組から、表現センスを感じる。